

IIR/OB/OG 会 20年度総会

議案4 新会長選任資料

立候補者 略歴

氏名 伊勢桃代 (IIR 3期)

学歴 慶応義塾大学 文学部社会学卒業(昭和34年)

シラキュース大学 マックスウェル大学院 社会学修士号

コロンビア大学 都市環境・都市計画修士号

職歴 国際連合ニューヨーク本部勤務：社会・経済開発担当、人材開発部長

国連大学：初代事務局長

アジア女性基金：元専務理事兼事務局長

現在 日本国連協会理事

国連大学協力会評議員

賞罰 外務大臣賞

立候補者 伊勢桃代の所信

私は、国連勤務のため、長い間日本におりませんでした。国連を定年退職し日本に戻りました時、IIRの50周年ということもあり役員となるお誘いがありました。そもそもIIRと私の繋がりは大学の3年の時と覚えています。その頃大先輩の方々が、戦後の疲れきった日本の状況の中で、交換留学生を通じ国際関係を作っていこうと一生懸命に基金を集め、努力を重ねておられたお姿と同時に、彼らの先見の明に感動したわけですが、その精神と努力が脈々と半世紀を越えて生きていることを知り、「続けていく」ことへの尽力を惜しまなかった現役員や会員の方々に新たな尊敬の念を覚えました。50周年に記念行事を立ち上げるに際しては、並々ならぬ努力と協力がありましたが、この組織を続けていくことの大切さを強く感じています。よって、この組織の強化をいろいろな面から試みたいと思っております。

日本の国際的地位は近来特に低下し、国際的に活動出来る人材の育成が重要な課題となる中、日本の国際化と関連し、留学生の重要性が国家戦略の一環となったのが現状です。

安西塾長が会長を務められた「教育再生懇談会」の教育振興基本計画に関する緊急提言は教育再生への確実な取り組みの第一課題として「留学生30万人計画」および外国での研鑽の支援等の国家戦略としての実行をにかけています。留学生の課題は、既に福田総理大臣の所信演説に掲げられていたものであります。IIRは、時代に先駆けて活躍してきたと思います。私どもの経験は、これからの慶応の大規模な留学生戦略への貢献に繋がることと考えるので、塾との関係も近いものとしたく思っています。

IIRには、非常に有能な人材が多く存在しています。OB/OGの様々な知識と経験はもとより、今最前線で活躍している会員は能力、知識、そして人脈があります。次世代への伝達や国際的能力の育成などの課題を取り上げる力があり、これまでも幾つかのプログラムを展開してきましたが、更なる発展が可能と思います。殊に、女性の役員と会員のなかにはいろいろなキャリアの経験があり、大きな活躍をしていただきたく思っています。

IIRは、財政的基盤が無い中、善意と献身的な努力と友好で支えられ、国際交流という大きな目的に向かってきました。役員はもとより会員同士の人と人の繋がりがこの組織の基礎であります。よって、組織の強化をしながら、現代問題を取り上げながら、そして会員と役員の皆様を支えられながら、幾つになっても楽しい交流の場として存続することに努力をしつつ思いながら、ここに、IIRについては若輩の自分ですが、立候補をさせていただきました。

伊勢桃代